



ヤナギハナガサ（三尺バーベナ）

撮 影 日：令和 2 年 8 月 8 日

撮影場所：秋田市 民家敷地

目次

生産現場情報：基本技術の励行で安定した大豆生産～農事組合法人 強首ファーム～	・ ・ ・ P 1～2
営農支援情報：令和 3 年産大豆の収穫に向けて	・ ・ ・ ・ ・ P 3
県 外 情 報：① SNS による枝豆プロモーション	・ ・ ・ ・ ・ P 4
② 東急田園都市線秋田県産青果物 P R 広告を秋商材に切り替えました	・ ・ ・ ・ P 4
ご 紹 介：① フードバンクあきたへ県産食材を贈呈～「食」をつうじて元気をお届け～	・ P 5
② 「ねぎ生産販売戦略会議」開催！～秋冬ねぎ販売強化へ向けて～	・ ・ ・ ・ P 6
③ J A 秋田なまはげ野菜部会「秋冬ねぎ現地研修会」開催	・ ・ ・ ・ P 6
④ 豪雪乗り越えたりんご出荷開始！	
～ J A 秋田ふるさと「令和 3 年度りんご出発式」開催～	・ ・ ・ ・ P 7
⑤ 頑張れ！秋田ノーザンブレッツ！～秋田県産農畜産物でエール～	・ ・ ・ ・ P 7
お 知 ら せ：① 第 1 4 4 回秋田県種苗交換会が能代市で開催！	・ ・ ・ ・ P 8
② 秋田のおいしい！が当たる！秋田米新米キャンペーン	・ ・ ・ ・ P 9

基本技術の励行で安定した大豆生産～農事組合法人 強首ファーム～

1. 法人設立の経緯

大仙市西部（旧西仙北町強首）の大正ロマンの香りを漂わせる豪農当時の建築物、登録有形文化財の宿「強首温泉 樅峰苑（しょうほうえん）」に隣接するように位置するのが「農事組合法人 強首ファーム」です。

平成19年4月からの品目横断的経営安定対策の導入に伴い、平成18年11月に集落営農組織を発足させ、平成21年4月には法人化に移行しています。

また、組織化と併行するように当該地区では、平成19年度から大区画ほ場整備事業（経営体育成基盤整備事業）が実施されており、令和3年度の完成を目指して終盤に差し掛かっています。

設 立：平成21年4月

代 表：小山田 和人

構 成：25戸（令和3年現在）



代表 小山田 和人さん

2. 経営の概要等

現在（令和3年）、約60ha超の農地で水稻35ha（うち密播苗34ha）、大豆24ha、枝豆1ha、ハクサイ0.8ha、キャベツ0.7ha、ブロッコリー0.4ha、トウモロコシ0.4ha、ソラマメ0.3haなどのほか、ハウス3棟（4K×20K）でホウレンソウ、ネギを栽培しています。

水稻作では、新品種サキホコレ1haを中苗で、その他はあきたこまち、ゆめおぼこ、秋のきらめき、ちほみのりで合計34haを密播苗（密苗）で対応しています。

最近、10a当たりの必要育苗箱枚数が少なくできる密播苗（密苗）が県内各地で増えてきています。そうしたことから、全農が提案したヨーバルトップ箱粒剤を1箱当たり75g施用で対応したところ、厳密な比較試験ではないものの周辺地区では



出来秋を迎えコンバインで稲刈り

50g 施用剤の密播苗（密苗）では一部にいもち病の発生がみられたことから、ヨーバルトップ箱粒剤の効果はあったのではないかと感想でした。また、秋のきらめき2ha、ちほみのり1haは全農との契約栽培で対応しています。



大豆圃場に立つ若手の田村さん

従前は排水性の悪いほ場であるため田畑転換が難しい条件にありましたが、基盤整備による暗渠排水の設置と団地化、毎年の弾丸暗渠施工による透水性の確保で3年を目処とした水稻と大豆のブロックローテーション体系、さらには中耕・培土や病害虫防除等の基本技術の適期励行で生産性の向上に努め、コンスタントに10a当たり300kg近い収量を確保しています。

こうしたことが評価され、令和元年度には第48回全国豆類経営改善共励会にて農林水産大臣賞の栄

3. 今後に向けて

強首地域では、明治・大正時代から雄物川流域の沖積地帯の畑で伝統的にハクサイが栽培されてきています。腐植に富んだ土壌がハクサイに適しており、「強首白菜」は柔らかく、甘く、食味がよいことから、雪国秋田の味覚である白菜漬けや鍋物の具材として高い評価を受けてきたものの、高齢化等により作付面積は減少傾向にあります。

経営面積全体の拡大は今後の方向性のひとつではありますが、まずは地域の特産野菜「強首白菜」の復活に向けて作付け拡大を図り、キャベツ・ネギなどと併せた冬場の収入を確保していきたいと構想を膨らませています。



ハクサイほ場



エダマメの脱莢作業



令和3年産大豆の収穫に向けて

本年は、6月以降好天が続き、生育は概ね良好で、中耕・培土作業も順調に行われ、全県の開花盛期は平年より2日早い7月29日であった。

秋の収穫に向けて、台風や秋雨による停滞水は刈り取り作業に影響することから、明渠や排水路の点検・補修などの排水対策を適切に行うとともに、農作業安全に努めながら秋の収穫作業等を実施してください。

1. 収穫

収穫は、大豆の枯れ上がり程度、茎や子実の水分状態を見極めて計画的に行うことが重要です。また、コンバイン等の調整・試運転等は事前に済ませるようにしてください。

- ① 大豆子実の外観品質は成熟期以降、徐々に低下するため、成熟期の早いほ場から収穫してください。
- ② 汚損粒の発生を抑えるため、茎水分50%以下（茎がポキッと折れる頃を目安）で刈り取りを行い、作業は朝露により子実が湿った時間帯を避けてください。
- ③ コンバインへの土の掻き込みは汚損粒発生的主要原因であるため、土を掻き込まない刈高にあらかじめ調整してください。また、排水性の悪いほ場や滞水し易い箇所は、コンバインの沈下に伴う土の掻き込みが予想されるため、事前には場の滞水程度を観察してください。ほ場内の大型雑草や落葉の遅い株はあらかじめ抜き取ってください。
- ④ 脱穀後は風通しのよい場所に置いてください。乾燥施設等の都合で刈り取り後、直ちに乾燥作業を行うことができない場合は、保管場所や保管方法に配慮してください。

2. 乾燥

乾燥前の子実水分と乾燥条件により、しわ粒や裂皮粒等の被害粒が発生する場合があるので注意してください。

また、乾燥温度の目安は次のとおりとし、送風温度は30℃以下、乾燥速度は0.4%/h以下で、子実水分を15%に仕上げてください。

- ① 子実水分18%の場合 室温+15℃以下
- ② 子実水分22%の場合 室温+8℃以下
- ③ 子実水分26%の場合 無加温（常温通風）

3. 選別・調製

仕上げ乾燥後、選別機で夾雑物や被害粒等を除去し、整粒歩合の高い高品質な大豆に仕上げてください。粒径選別に用いる篩い目は、大粒は7.9mm、中粒は7.3mm、極小粒は4.9mmを使用してください。

（注）詳細は「作況ニュース（第7号）秋田県農林水産部」及び「大豆指導指針（令和3年3月秋田県農林水産部）」を参照のこと

フードバンクあきたへ県産食材を贈呈 ～「食」をつうじて元気をお届け～

J A全農あきたは9月3日、一般社団法人フードバンクあきたへ秋田県産食材を提供する贈呈式を開催しました。式では、J A全農あきたの佐藤英一副本部長からフードバンクあきたの林多実代表理事と石井純一理事へ秋田県産あきたこまち精米600キロと、ジュース「のむりんご」40ケースを贈呈しました。



【写真左から】一般社団法人フードバンクあきた：石井純一理事、林多実代表理事、J A全農あきた：佐藤英一副本部長

J Aグループ秋田・J A全農あきたは、新型コロナウイルスの影響により、依然として活動の制限を余儀なくされている全国の消費者に対してのご愛顧と「食」を通じて元気を届けるため、また、低迷するお米の消費を打開し、生産者の方々の生産意欲向上に少しでもつながる一助とするため、今年の6月～8月に「夏の元気はお米でチャージ！秋田米『夏』キャンペーン」を実施しました。今回の贈呈は、このキャンペーンの売り上げの一部をもとに行ったものです。J A全農あきたの佐藤副本部長は、「子どもたちに『おいしい秋田米』を食べ、『おいしいりんごジュース』を飲んでもらい、健康で元気に過ごしてほしい」と話しました。今回贈呈した県産食材は、社会福祉協議会などを通じて子ども食堂を運営する団体などに提供される予定です。

「ねぎ生産販売戦略会議」開催！～秋冬ねぎ販売強化へ向けて～

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：ＪＡ全農あきた）は９月２日、秋田県ＪＡビルで「ねぎ生産販売戦略会議」を開催し、県内ＪＡ担当者や県関係者、ＪＡ全農あきた職員など１９名が参加しました。

秋田県産ねぎは「オール秋田」体制のもと最重点品目に掲げて取り組んでおり、県の園芸メガ団地事業などの活用により全県的に生産の拡大が図られています。会議では、今後夏ねぎから秋冬ねぎへの切り替わり、最盛期を迎える秋田県産ねぎの販売計画の確認と販売対策について協議しました。

今年はコロナ禍による業務用需要と高温による消費の低迷により前年よりも厳しい販売となっていますが、重点市場への計画出荷等の情報共有や、デジタルサイネージの活用や推奨販売など非接触型の販促活動の実施、交通広告等の消費宣伝対策の実施など積極的な販売強化をすすめています。

今年度は、販売数量９，５００トン、販売額２７億円の達成を目指します。



ＪＡ秋田なまはげ野菜部会「秋冬ねぎ現地研修会」開催

９月７日、ＪＡ秋田なまはげ野菜部会の「秋冬ねぎ研修会」が行われ、生産者やＪＡ職員、県の関係者、ＪＡ全農あきた職員が参加しました。研修会では秋田地域振興局の担当者より、秋冬ねぎ出荷前防除の注意点について情報提供があったほか、ＪＡ担当者からは生育概況と栽培および出荷上の注意点について説明がありました。また、新型ねぎ収穫機の実演会を行いました。今回実演に用いた小橋工業（株）の自走式・全自動ねぎ収穫機「ＳＯＦＹ（ＨＧＸ１００）」は従来機種に比べ、コンテナ積載量の向上により収穫機からの乗降時間（回数）が削減できるほか、土落し性能の向上により土の除去作業時間が短縮できるなど、さらに作業効率が上がるとされています。当日は会場を提供いただいた生産者も、実際に新型収穫機を使用してネギの収穫作業を行い、性能を確かめていました。



ＪＡ全農あきたは今後もオール秋田体制のもと、本県の最重点品目である長ねぎの生産振興に努めてまいります。

豪雪乗り越えたりんご出荷開始！

～ＪＡ秋田ふるさと「令和３年度りんご出発式」開催～

９月７日、横手市平鹿町のＪＡ秋田ふるさと醍醐選果場で「令和３年度りんご出発式」が開催され、生産者やＪＡ秋田ふるさと、秋田県、横手市、ＪＡ全農あきたなどの関係者が出席しました。

ＪＡ秋田ふるさと管内ではりんごの収穫が８月の下旬から始まっており、式では作業や輸送の安全、有利販売を祈念し、神事とドライバーへの花束贈呈、テープカットが行われました。そして、早生品種「つがる」８トンを載せて関西市場へ出発するトラックを見送りました。



今年は記録的豪雪による枝折れや倒木被害を受け、収穫量は昨年の６割ほどと見込まれていますが、生産者の努力と盆過ぎからの寒暖差により例年以上に色づきがよく、甘くおいしいりんごに仕上がりました。会場では試食会も行われ、ミス・フレッシュ秋田が参加者へ「つがる」を振る舞いました。「さんさ」から始まったりんごの収穫は、「つがる」「やたか」「王林」「サンふじ」と続く品種リレーにより、１月下旬頃まで出荷を予定しています。ＪＡ秋田ふるさとでは今年度、出荷量３，５００トン、販売額８億円を目指します。



頑張れ！秋田ノーザンブレッツ！～秋田県産農畜産物でエール～

ＪＡ全農あきたは９月７日、ラグビーフットボールクラブ「秋田ノーザンブレッツ」を地元の食で応援しようと、秋田県産あきたこまち３００ｋｇと秋田県産豚肉５０ｋｇを贈呈しました。

新型コロナウイルスの影響で２年ぶりの開催となるジャパンラグビートップイーストリグ開幕に向けＪＡ全農あきたの小林和久県本部長が「生産者の想いを胸にチーム一丸となって頑張ってもらいたい」と激励しました。今回贈呈した県産農畜産物は９月中旬に各選手へ配られる予定になっています。リーグＢからのスタートとなる同クラブはリーグＡへの昇格を目指します。ＪＡ全農あきたは、今シーズンも秋田ノーザンブレッツＲＦＣをユニホームスポンサーとして応援していきます。

写真：秋田市「スペースプロジェクト・ドリームフィールド」にて贈呈式開催



第144回秋田県種苗交換会が能代市で開催！

キャッチフレーズ「白神の空にとどけ！豊穡の祈り。大地の恵みを、能代から。」

歴史と伝統のある本県独自の農業イベント第144回秋田県種苗交換会が「能代市総合体育館」を主会場に、令和3年10月29日（金）から11月4日（木）の7日間にわたって開催されます。

昨年と同様に新型コロナウイルス対策をとりながら開催することとなりますが、今年も「農業機械化ショー」など一部の行事等を取りやめての開催となる予定です。

◆主会場（能代市総合体育館）

- 農産物出品展示
- 産米改良展
- 学校農園展
- 農業関連参考展示
- 聖農石川理紀之助翁展

◆協賛第1会場（能代市総合体育館駐車場）

- 農工商フェア
- J A 女性部食堂
- 能代山本P R ブース

◆協賛第2会場（能代河畔公園、能代河畔公園隣接地）

- おらほの農機具展示会
（J A あきた白神・J A 秋田やまもと主催）
- 物産販売展
- 墓石・仏壇展

◆協賛第3会場（中心市街地各所）

- 街なかの賑わい創出イベント

◆各種式典及び協賛行事（能代市文化会館・中央公民館）

- 新穀感謝農民祭並びに開会式
- 談話会
- 秋田県N O S A I 大会
- 秋田県農業委員大会
- 秋田県土地改良事業推進大会
- 農村における健康を考える集い
- 秋田県産米品評会表彰式
- 褒賞授与並びに閉会式

白神の空にとどけ！
豊穡の祈り。
大地の恵みを、能代から。

先人に学び 農業の未来をひらく

第144回
秋田県種苗交換会

会期：令和3年
10月29日（金）～11月4日（木）

会場：秋田県能代市
主催：秋田県農業協同組合中央会 協賛：能代市協賛会
コロナウイルス感染症の状況により日程等が変更になる場合があります。

ご来場の皆様へ
●体温：37.5℃以上の方は入場をご遠慮ください。
●マスクを着用していない方はご来場できません。

第144回秋田県種苗交換会ホームページ
<https://www.city.noshiro.lg.jp/sangyo/norin/syubyou-noshiro144/>

※詳しくはホームページ <https://www.city.noshiro.lg.jp/sangyo/norin/syubyou-noshiro144/> をご覧ください。

秋田のおいしい!が当たる!

秋田米新米キャンペーン

新米

バーコードで応募!

応募締切:令和3年12月30日
当日消印有効

A 賞

秋田牛すき焼き用
400g



B 賞

酒香秀吟 穂
百田・一穂積いずれか1本



※B賞への応募は
満20歳以上の方
へ限らせていた
きます。

C 賞

サキホコレ 2kg



各50名様



詳しい内容・応募方法はこちらから

●応募方法: JA全農あきたパールライス商品の5kg以上はバーコード1枚を1口、5kg未満はバーコード2枚を1口として、郵便はがきに貼付し、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・応募賞品(A、B、C賞)・お買求め販売店名・秋田県産米に対するご意見・ご感想をご記入の上ご応募ください。お一人様何口でもご応募できますが、ハガキ1枚につき1口とさせていただきます。※販売店がわからない場合記入の必要はございません

●宛先: 〒010-1633秋田県秋田市新屋島木町1-41

(株)全農ビジネスサポート秋田支店「秋田米新米キャンペーン」係

●当選発表: 厳正なる抽選の上、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

※ご応募いただいた個人情報はキャンペーンに関する目的以外では使用しません。

●お問い合わせ/秋田米新米キャンペーン事務局 フリーダイヤル 0120-050-798 受付時間9:00~17:00※土・日・祝日、年末年始を除く

JAグループ秋田・JA全農あきた

◆専用米袋または告知シールが貼付されている商品が対象です。

◆対象商品のバーコードを郵便はがきに貼付し、ご希望の賞品を選んでご応募ください。

◆応募締め切りは12月30日(木)です(当日消印有効)

米穀部 パールライス課 ☎018-845-8000



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第20号 令和3年10月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462